

報道関係者各位

2023年7月19日

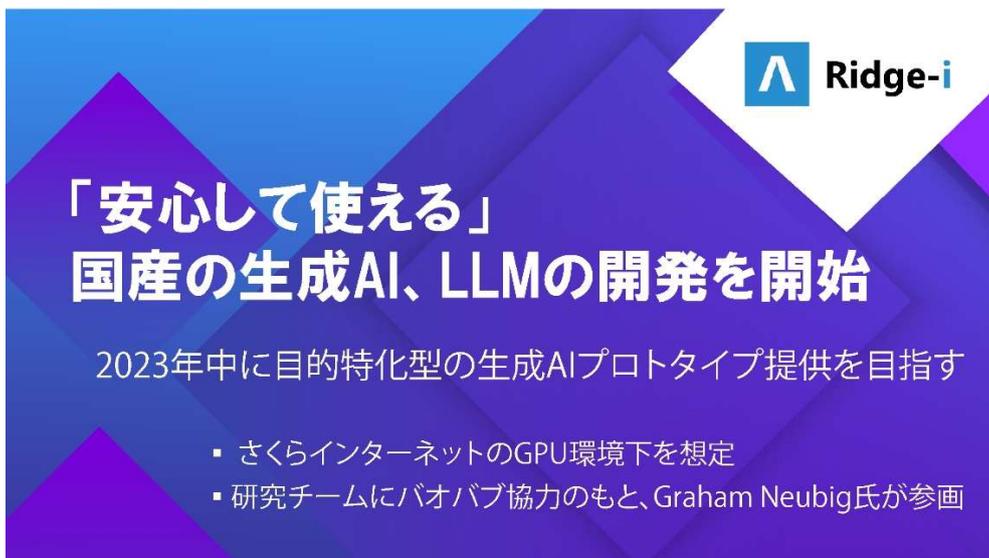
株式会社 Ridge-i

「安心して使える」国産の生成 AI・大規模言語モデル(LLM) の開発を開始

～さくらインターネットの GPU サービスを採用予定。

2023 年中に生成 AI・LLM のプロトタイプ提供を目指す～

企業および官公庁が安心して利用できる目的特化型の大規模言語モデル(LLM) の提供に向けて、AI のコンサル開発を手がける Ridge-i (以下、リッジアイ) が開発を開始しました。GPT を中心とした生成 AI・LLM の活用は多くの企業が注目しています。一方で秘匿性の高いデータを共有することに関して、セキュリティリスクへの懸念や、ファインチューニング (業務や目的に合わせた精度向上) のニーズが高まっています。そこで、リッジアイでは、業務や目的に合わせた目的特化型の生成 AI の開発を、国産のクラウド提供事業者であるさくらインターネット株式会社 (以下、さくらインターネット) の環境下で構築し、企業および官公庁が安心・安全に利用できる AI の開発支援・提供を実現します。研究開発チームには自然言語 AI 領域で豊富な経験を持つ株式会社バオバブ (以下、バオバブ) の協力の下、世界的な NLP 研究者である Graham Neubig 氏 (※1) がアドバイザーとして参画します。



The graphic features a blue and purple geometric background with the Ridge-i logo in the top right corner. The main text is in white and Japanese, announcing the start of domestic LLM development. Below the main text, there are two bullet points in white text on a dark purple background.

**「安心して使える」
国産の生成AI、LLMの開発を開始**

2023年中に目的特化型の生成AIプロトタイプ提供を目指す

- さくらインターネットのGPU環境下を想定
- 研究チームにバオバブ協力のもと、Graham Neubig氏が参画

開発経緯と目的

リッジアイでは、ChatGPT の API 開発や Microsoft 社が提供する Azure Open AI の環境での AI 構築などを行ってきております。その中でも近年では、業務や専門知識の理解、倫理や規約の遵守など目的に合わせた精度向上の必要性およびオープンクラウド上での利用への不安に関する問い合わせも増えています。先日、リッジアイが国内大手企業の IT 担当者向けに行っ

た、ChatGPT の業務活用に関する実態調査 (※2) によると、回答者の 44% が生成 AI の業務活用の検討をしている一方で、情報セキュリティの面で不安があると回答した人が 90% 以上を超えていることがわかりました。こうした社会ニーズに対応するために、日本語で稼働する生成 AI の実現に向けて研究開発を開始することにしました。

現状の生成 AI に感じる課題感の解消も目指すため、(1) 情報セキュリティの面で「安心して使える」LLM の利用環境の提供 (2) 日本語にチューニングされた目的特化型の生成 AI・LLM の開発 に注力して着手します。2023 年中にプロトタイプ版の提供開始、2024 年からは企業向けの生成 AI・LLM 活用サービスの提供を目指します。

リッジアイが強みを持つマルチモーダル AI 技術に自然言語領域の AI が加わることで、最先端技術でビジネス・社会課題を解く、というミッションの実現に向け更に邁進していきます。

なお本件に関しまして当期の業績に与える影響は軽微です。

開発体制

今回の研究開発にあたり、必要となる画像処理半導体 (GPU) は、さくらインターネットが提供予定の GPU サービスを採用する想定です。

また、情報セキュリティ面や、目的に特化した LLM の研究開発に向けて、当社の AI エンジニアだけでなく、自然言語の AI 開発で豊富な知見を持つバオバブの協力を仰ぎ、日本語の NLP 開発で知見を持つ元 Google の小田悠介氏、およびカーネギーメロン大学准教授の Graham Neubig 氏が参画します。これにより、日本語特有のトークン解析やファインチューニングのための知見を組み込んだ最先端かつ高精度の日本語 LLM の開発を目指します。

本 LLM の特長

下記のテーマで研究開発を行うことで、目的特化型 LLM の実現を目指します。

- 研究開発資料や顧客情報など秘匿性の高いデータ
国内のデータセンターで動く LLM を開発することにより、安心して使える環境を目指します。
- 実用性と費用対効果を考慮した目的特化の軽量 LLM
利用用途に応じて最適なパラメータ数の LLM を提供するための研究開発を行い、安価な計算環境での利用や、組み込みソフトとしての展開などを見据えた LLM の提供体制を目指します。
- 日本語に特化した研究
日本語に基づく歴史や法律、業務や専門知識の理解、倫理や規約の遵守などが可能となる LLM を実現するための学習・検証データの整備やファインチューニングのノウハウを蓄積することで、官公庁などの機関で使える LLM を目指し、専門家不足や学校教員不足の解決につなげていきます。

各社からのコメント

さくらインターネット株式会社 代表取締役社長 田中邦裕 氏

「この度、Ridge-i 様と共に大規模言語モデル(LLM)の開発にて協力できることを大変嬉しく思います。生成 AI への関心が高まっている今、経済安全保障の観点からも国産 LLM の実現は社会に大きなインパクトを与えるものだと考えます。本件が、日本における AI の発展をさらに加速させる一助となることを期待しています。当社は、「『やりたいこと』を『できる』に変える」を企業理念に掲げており、Ridge-i 様をはじめとしたスタートアップ企業の生成 AI への取り組みを支援してまいります。」

株式会社バオバブ 代表取締役社長 相良美織 氏

「この前人未達のチャレンジにバオバブが貢献できること、非常にワクワクしています。

過去 10 年以上にわたる言語処理分野におけるデータ作成の知見を如何なく発揮する事はもちろんのこと、この度 7 月にバオバブに参画したばかりの Graham Neubig 氏、及び国内でも数少ない LLM 研究者達を含むモデル開発チームという万全の布陣で挑み、最先端かつ高精度の目的特化型 LLM の実現を目指します。」

※1 Graham Neubig 氏略歴：カーネギーメロン大学コンピュータサイエンス学部言語技術研究所(CMU-LTI)准教授
<http://www.phontron.com/index.php?lang=ja>

※2 [「90%以上がセキュリティに懸念。生成 AI 固有のセキュリティリスクを懸念するも 80%が未対応」](#) 2023 年 6 月 15 日付プレスリリース

さくらインターネット株式会社について

さくらインターネットは、1996 年創業のインターネット企業です。「さくらのクラウド」「さくらのレンタルサーバ」「さくらの VPS」などのクラウドコンピューティングサービスを、自社運営の国内のデータセンターから提供しています。「『やりたいこと』を『できる』に変える」の企業理念のもと、お客さまのご要望にお応えする多様なサービスを開発し、あらゆる分野に対応する DX ソリューションを提案します。

会社名：さくらインターネット株式会社

所在地：〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-12-12 東京建物梅田ビル 11 階

事業内容：クラウドコンピューティングサービスなどの提供。データセンター運営

代表者：代表取締役社長 田中邦裕

<https://www.sakura.ad.jp/corporate/>

株式会社バオバブについて

バオバブは、創業以来 AI のための学習データ構築サービス事業を展開し、言語処理・画像認識・対話シナリオ・マルチモーダル向けの多様なソリューションサービスを国内外の大学、学術機関、研究所等に提供しています。プロジェクトにあたる「パートナー（Baopart）」を独自に育成し、的確な仕様策定、パートナー（Baopart）が迷うことのない作業ルールの作成、品質管理者による日々の進捗とデータチェック、納品前のクオリティチェックなど、緻密な業務フローと組織、システムで学習データの高い品質を担保しています。

OpenAI 社の ChatGPT など高性能な会話型 AI の学習プロセスとして採用されている RLHF（Reinforcement Learning from Human Feedback、人間からのフィードバックを用いた強化学習）をはじめ、LLM 開発、及びモデルの評価においても、バオバブはこれまでの知見を活かしたサービスの展開を目指してまいります。

会社名：株式会社バオバブ

所在地：〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-12-1 新有楽町ビル 11FPortalPoint

事業内容：AI のための学習データ作成サービス

代表者：代表取締役社長 相良美織

URL：<https://baobab-trees.com/>

株式会社 Ridge-i (リッジアイ) について

リッジアイは、AI・ディープラーニング技術を活用したソリューションにより、経営・社会課題の解決に挑むテックイノベーションチームです。特に、画像解析ディープラーニング、センサーによる異常検知 AI、最適化 AI など様々なデータに対応する AI を組み合わせた「マルチモーダル AI」に強みを持ちます。戦略策定から要件定義フェーズに始まり、現場のコンサルテーションから開発・運用保守まで、投資対効果を実感するまで一気通貫で伴走し、これまでもごみ焼却運転の自動化 AI や、物流倉庫のレイアウトを自動でデザインする AI「ALPS」など、多くの実績をあげています。また社会課題にも積極的に取り組んでおり、SDGs 課題と環境変化を衛星画像から発見する「GRASP EARTH」などで第 4 回、第 5 回宇宙開発利用大賞を連続受賞しました。今後とも技術とビジネスの高みを追求し、社会・顧客が持続的に効果を実感できる最高峰のソリューションを提供します。

会社名： 株式会社 Ridge-i

設立： 2016 年 7 月

所在地： 東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル 438

代表： 代表取締役社長 柳原 尚史

資本金： 365,650,000 円

事業内容：

- ① AI・ディープラーニング技術のコンサルティングおよび開発
- ② 共同事業、ライセンス、保守モデル、自社開発等によるプロダクトの提供
- ③ 人工衛星データ AI 分析サービスの提供

URL： <https://ridge-i.com>

お問合せ： contact@ridge-i.com